

語に互つて存する *bakhsi* なる言葉である、此の語は各國語、またその方言によつて種々音を異にし、また諸種の義に用ゐられて居るが要するに同一語の轉訛にすぎない、その中朝鮮語では *pak-syn* の形で *sorcerer* トルコ語の中のキルギス語では *baksi bakši* の形で同じ巫即ちシャマンを呼ぶ名である、その他朝鮮語では *pa-či*、として *工* *an artisan* 滿洲語では *fak-si* として *工*、巧、*ツングース語* 中の *ゴールド語* では *paksi, páxsi* として *Meister* オロチオン語は *pakčine* として同義に、女真語では *bahših* (法師) として匠人、蒙古語では *baksi* として *maitre, instituteur, docteur, lettré, lama* バラガンスク、*ツングース語* では *baksi* として *Lehrer* トルコ語のチャガタイ語で *baxsi* として *Musikaner, Sänger, Erzieher* ロマン語では *baksi* として *Schreiber* トルコ語キブ語では *Volkssänger, Musikant* サルト語では同形で *Sympathiedoktor* ペルシャ語では *clerk, secretary* 印度のモハメット教徒軍隊の間では主計官を呼ぶ名に用ゐられて居る、⁴⁵ 此の語は古くは Marco Polo の旅行記中にも巫もしくは喇嘛を呼ぶ名として見えてあるし、またツルファン出土のウイグル文の中にも記されて居つて *der Lehrer, der buddhistische Gelehrte* の意味に用ゐられて居る、⁴⁶ *Vambéry* 氏はこれをウイグル語の *bakmak = Acht geben* より出た語として居るが、⁴⁷ いふ迄もなくこれは無理である、⁴⁸ *Quatremère* 氏や *Yule* 氏等は之を梵語の *bhikshu* から出たものと見、白鳥博士や其の他我が國の學者は「博士」の語から出たものと考へて居らるゝ人が多い様である、こゝで自分の管見をも述べる筈であるが今は省略に従つて他日を期することにする、たゞ Marco Polo が傳へて居る蒙古の巫に對する *bacsi* なる語は必ず外來の語であつて、純粹の蒙古語ではなく、そうして多分これより前であらうがウイグル語にもこれが存することだけをこゝに述べて置くに止める。